

「境界知能・グレーゾーンの子どもたち」

への取り組みについて

社会福祉法人 こうほうえん（鳥取県）

住所	〒683-853 鳥取県米子市両三柳 1400
TEL	0859-24-3111
URL	https://www.kohoen.jp/
経営理念	地域を「真ん中」に置く事業展開 (理念) わたくしたちは、地域に開かれた、地域に愛される、 地域に信頼される、『こうほうえん』を目指します
事業内容及び定員	回復期リハビリテーション病院：1ヶ所（48名） 診療所 1ヶ所 特別養護老人ホーム：9ヶ所（573名） 地域密着型介護福祉施設入所者生活介護：2ヶ所（53名） 介護老人保健施設：5ヶ所（230名） 特定施設入居者生活介護：5ヶ所（258名） 認知症グループホーム：8ヶ所（123名） 小規模多機能型居宅介護：11ヶ所（272名） 短期入所生活介護：10ヶ所（128名） 緊急ショートステイ：1ヶ所（4名） 通所介護：11ヶ所（363名） 認知症対応型通所介護：3ヶ所（36名） 通所リハビリテーション：5ヶ所（192名） 通所型独自：1ヶ所（10名） 居宅介護支援事業：5ヶ所 福祉用具貸与：1ヶ所 訪問介護：5ヶ所 訪問看護：3ヶ所 訪問リハビリテーション：4ヶ所

	生活支援ハウス：4ヶ所（80名） ケアハウス：2ヶ所（110名） 住宅型有料老人ホーム：2ヶ所（20名） サービス付き高齢者向け住宅：2ヶ所（143名） 保育園：11ヶ所（1127名） 児童発達支援事業所：2ヶ所（20名） 子育て支援センター：1ヶ所 ベーカリーカフェ（就労継続支援）：1ヶ所
収入	①社会福祉事業 12,464,751,016 円
（法人全体）	②公益事業 871,609,574 円
令和3年度決算	③収益事業 21,225,806 円
職員数	2320名（非常勤を含む）
（法人全体）	

「境界知能・グレーゾーンの子どもたち」への取り組み

「キッズタウンあとリエ」での取り組みを通して

社会福祉法人こうほうえん キッズタウンあとリエ
管理者兼児童発達管理責任者 杉浦悦子

社会福祉法人 こうほうえん



<理念> 私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、
地域に信頼される『こうほうえん』を目指します

<基本方針> 私たちは、サービス業のプロとして、
正しい情報を伝達し、自分が受けたい、
保健・医療・福祉サービスの、提供・改善に努めます

こうほうえんは鳥取と東京をベースとし、介護、保育、医療、障がい者支援の事業を展開しています。

こうほうえん職員が大切にしている”お互いが助け合って、お互いが恵み合う“という「互恵互助」の精神は、保健・医療・福祉に携わる職員にとって必須の資質であり、信頼される法人の原点であると私たちは考えています。

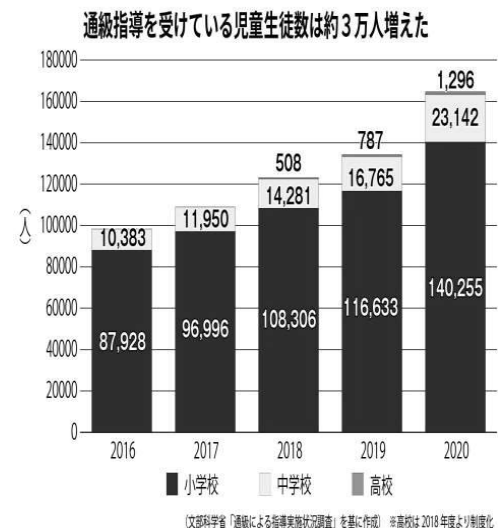
児童発達支援「キッズタウンあとリエ」

- 東京都北区で障がい児通所事業である児童発達支援事業所
- 2歳から5歳児の障がい児及び発達に不安を抱える児童が対象
- 通所方法は親子通所から単独通所への移行
- コンセプトは
「将来の幸せのために今できることを…」
「小さな“できた”をかさね大きな力にしていこう」
- 生活クラス、就学クラスの2通りの療育
- 生活クラスでは将来の自立に向けた取り組み、就学クラスでは、境界知能・グレーゾーンの子どもに特化した療育内容を展開



取り組みの目的や背景

- 「境界知能・グレーゾーンの子どもたち」は小学校の通常級でも7人に1人はいると言われている
- 障害手帳を取得できない子どもたちは年を重ねるごとに社会の中でサポートしてもらおう機会が減り、学校や社会の中で、困った子・困った人扱いされてしまうことがある
- 療育的なかわりの効果は低年齢であればあるほどに効果が出やすいと言われている
- 「境界知能・グレーゾーンの子どもたち」が将来困らないために、児童発達支援に通っている子はもちろん、通っていない子に対しても、様々な角度から早期的なサポートが必要だが、サポート受けられる場所は少ないのが現状である
- 大人になり社会に出てから仕事があまくいかず気づくケースもある
- WHO国際疾病分類：ICD-8（1965年から1974年）では、「ボーダーラインの精神遅滞」と分類されていた



境界知能・グレーゾーンの子どもたちとは？

- IQが69以下の知的障害には該当はしないが、IQ70～84で一定の支援が必要な児童
- 軽度の知的障害と健常者との間の知能（IQ70～84）という意味で境界（領域）知能と呼ばれる
- 境界知能の子どもは、一般的に学習効果が得られにくいといわれる
- 境界知能の割合は人口の約14%（7人に1人）といわれている
- 知的障害ほどIQが低くないために幼少期には気づかれにくい
- 障がい児と健常児の堺のため「グレーゾーン」とも呼ばれることもある

生活能力	a	b	c	d
IQ				
I (IQ ~20)	最重度知的障害			
II (IQ 21~35)	重度知的障害			
III (IQ 36~50)	中度知的障害			
IV (IQ 51~70)	軽度知的障害			

1. 事業所内での取り組み（児童）

- 基本的な生活習慣が身に付いた4.5歳児を対象にスムーズな就学に向けた取り組みを目的とした「就学クラス」を開設
- 運動療育では「小学校指導要領」を参考に、縄跳び、鉄棒、マット、ラジオ体操などの取り入れ
- 小学校1年生の国語/算数の教科書を参考にした机上活動
- 机上での活動は、少しずつ時間を延ばし、卒所までに小学校の授業時間である45分間の着席を目指す
- 挨拶、自己紹介、発表など、人前で聞き取りやすい声で話す練習
- ビジョントレーニングからスタートし、黒板写し、ノートへの書き取りの習得

初めてのことに不安や苦手意識を抱える児童に対して、経験を積ませることが狙い



☆他の児童発達支援ではなかなか見られない取り組み！！☆

就学クラスでのカリキュラム例

14:00	入室/身支度/着替え	※小学校の休み時間を想定し、着替えは5分間で終える
14:10	運動療育	※ルールの徹底や小学校の授業を想定した内容設定
14:50	排泄水分補給	
15:00	自己紹介・発表	※最低限のコミュニケーション力を養う
15:10	机上活動	※最終目標は小学校の授業時間である45分間の着席
15:50	着替え/帰り支度	
16:00	降所	

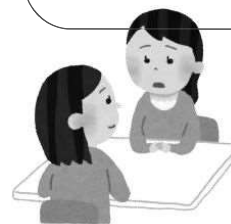
その他小学校の教科書の取り入れや、他児と協力して行う活動、合図で活動を終了する切り替えの練習を行い、スムーズな就学移行を目指すとともに、認知ソーシャルトレーニング、認知機能強化トレーニング、認知作業トレーニングなどを行い、将来の自立に向けた支援をしています

2. 事業所内での取り組み（保護者）

- 保護者が相談しやすい環境作り
- 保護者の満足度を重視した時間をかけた面談
- 月1回以上の親子通所日の導入
- 保護者会/ペアレントトレーニング日の設定
- 「小学校に向けて練習すべきこと」の冊子の作成と提供
- 細かい領域に分けた個別支援計画書の作成
- 児童の成長を実感できるようなアセスメントツールの使用

児童発達支援は通過施設。保護者のエンパワメントを引き出すことが大切

児童発達支援に通う数時間で児童を成長させるには正直限界があります。保護者との関係作りから始め、保護者の意思改革をしていくことが重要です。児童が一番長く過ごす家庭での時間が大切であることを、保護者に負担にならない加減を考えながら理解していただいています。



3. 事業所外での取り組み

- 法人内保育所在所中の要支援児童への巡回及び職員指導
- 法人新人保育士職員へ支援児保育の研修
- 法人内保育所在所中の要支援児童への面談立ち合い
- 利用児併用施設（幼稚園/保育園/小学校）への巡回及び職員指導
- 利用児就学先小学校とスムーズな移行のための連携会議
- 発達支援センターでの保護者座談会のファシリテーター
- 積極的な実習生やボランティアの受け入れ

幼稚園や保育園をはじめ、地域や商業施設などで適切な支援がなされなかったり、理解が得られなかったりするのには、境界知能児童を含め、発達障がい児を知らないからだと考えています。沢山の方に知って頂くことで児童本人はもちろん、家族の方が過ごしやすい社会になって欲しいと思っています。

境界知能への
理解の促進
支援の手が行
き届いていな
い児童への働
きかけが狙い



利用児・関係者にとっての効果

- 小学校生活がスムーズに過ごせている（児童）
- 苦手意識を持たずに授業に参加できている（児童）
- 人前での発表を誉められた（児童）
- 子どもへの支援がうまくいった（保護者/小学校教員）
- 先取り学習の習慣が付いた（児童・保護者）
- 通級指導の先生に早期療育の効果を褒められた（児童/保護者）
- 子どもの強みが分かった（保護者）
- 児童の問題行動の理由が分かった（小学校教員）



～様々な方から、嬉しい報告がたくさん届いています～

事業所にとっての効果

- 「療育を休んだらもったいない！」という保護者の思いから児童の欠席が減り、稼働率がアップ
- 「もっと通わせたい」という保護者の思いから、欠席する際の振り返りの申し出が増!
- 就学クラス利用を目的とした問い合わせ増!
- 利用児の保育園幼稚園からの紹介児童増!
- 区の発達支援センターからの紹介児童増!
- 卒所児保護者からの紹介児童増!

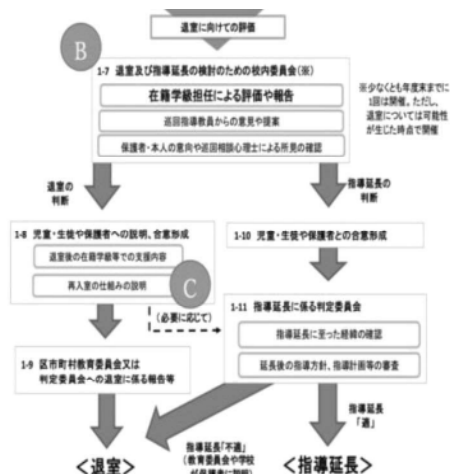


～療育内容が充実すると自然に稼働率も上昇してくる～

現状の課題

- 東京都では小学校の通常級に通う児童が受けられる「通級指導教室」のガイドラインが作成され、利用継続には一定の条件が必要となった（ガイドラインの内容の中に、1年毎の児童の評価と共に、来年度も通級指導が利用できるかどうかの判定が必要と明記）
- 必要な児童にとっては指導を継続できると書いてあるが、保護者の中では、「利用継続できるか?」「今年一年で打ち切られるのではないか?」と不安を抱えながらの利用となっている

通級指導 1年毎の評価



今後の展開として



境界知能・グレーゾーンの子どもたちに特化した
放課後等児童デイサービスの需要拡大
保育所等訪問支援（学校・学童への訪問も可能！）サービスの需要拡大
この2つの事業に需要が集まることが考えられます。

「キッズタウンあとリエ」を運営する社会福祉法人こうほうえんでは、
新たに境界知能・グレーゾーンの子どもたちを対象とした多機能型の事業所
「キッズタウンぱれっと」が、2023年1月にオープンいたします。
こうほうえんでは、あとリエ、ぱれっと共に保育園に併設しています。
保育園に併設することで、保護者が仕事をしながら通わせられます。
いつかは法人内すべての保育園に障がい児通所施設を作りたいと考えています。
鳥取県で運営している「キッズタウンからふる」も保育園に併設されています。

その他の取り組み

境界知能・グレーゾーンの子どもたちやそれ以外の発達に問題を抱えている児童にも、様々な取り組みを行っています。公益的取り組みと1つとして行っている「あとリエまつり」では、発達に心配な地域の児童を招待して、発達を促すような活動や景品の配布、無料相談を行っています。

また、夏休みの保護者支援として、宿題で最後まで残りがちな自由研究や自由工作を行えるワークショップを開催しています。

その他、近隣の幼稚園保育園に、療育的な活動のできる手作り玩具の配布も行っています。



本当の優しさとは想像力だと思っています。
そして、療育を行う上で一番大切なのが本当の優しさ（＝想像力）です。
児童の将来の幸せと自立のために何が必要なかを常に考え
ご家族の方や地域の方と共に、実践していきたいと思えます。
境界知能の児童が大人になった時に力を最大限発揮し、
自分らしく幸せに暮らしていけるような支援を今後も考えていきます。

🌀ご清聴ありがとうございました🌀

社会福祉法人こうほうえん キッズタウンあとリエ
管理者兼児童発達管理責任者 杉浦 悦子

<https://www.instagram.com/kohoen.0004/> (キッズタウンあとリエInstagram)
https://www.instagram.com/kidstown_pallet/ (キッズタウンぱれっとInstagram)